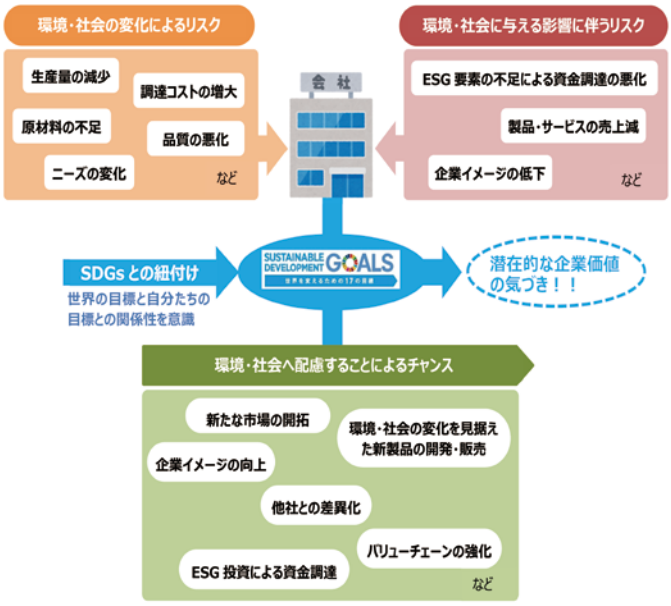
2021年のキーワード── 事業活動とSDGs

SDGs*には社会がかかえる課題が包括的に網羅されており、その「持続可能な開発目標」とは要約すると、「私たちの生活や地球を守りながら、さまざまな問題を解決して豊かな未来をつくるための目標」と言い換えることができます。そのSDGsが、ビジネスの世界では経営リスクを回避し、新たなビジネスチャンスを獲得するなど、企業の発展を追求するためのツールとしての一面があることに注目が集まっています。

自社の事業内容とSDGsの各目標との紐づけを行うことによって、ビジネスチャンスが見つかり、潜在的な企業価値の気づきにつながります（図1）。

図 1　企業にとってのリスクとチャンス



出所：環境省「持続可能な開発目標（SDGs）ガイド 第2版」

なぜ今SDGsなのか

今や多くの企業が経営にSDGsを組み込んでいます。SDGsの普及により、市場、取引先からのニーズとしてSDGsへの対応が求められることもあり、投資の条件としてSDGsに取り組んでいるのかも検討材料のひとつとなっています。また、取り組みをきっかけに新たなビジネスパートナーや競合先との差別化を行うことができるなど、SDGsへの取り組み方が企業の価値を高める時代となりつつあります（図2）。

事業内容とSDGsの紐づけ

SDGsが関係するのは何も特別な取り組みだけではありません。企業が行う事業そのものはもちろん、ふだんから取り組んでいる節電や節水、社員の福利厚生など、企業が行う行動すべてがSDGsとつながっています（図3）。

具体的なつながりを見てみましょう。たとえば、包装する際の梱包材の重量やサイズを削減することは目標12「持続可能な生産消費形態を確保する」、消費者の健康に配慮した設計は目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」へとつながります（図4）。このように、ふだんから意識している・実践していることがすでにSDGsの取り組みへとつながっていることがあります。

持続可能な会社にするためには、今の社会のニーズだけでなく将来のニーズをも満たすような事業展開を行う視点が必要です。SDGsの目標と自社の事業内容を照らし合わせてみてはいかがでしょうか。

㈱京都総合経済研究所
調査部長　楢舘孝寿
研究員　森本奨吾

■参考HP
・環境省HP「すべての企業が持続的に発展するために── 持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイド 第2版」（http://www.env.go.jp/policy/sdgs/index.html）

図 2　SDGsの活用によって期待できる4つのポイント

＜ SDGs の活用によって期待できる 4 つのポイント ＞

ポイント 1　企業イメージの向上

SDGs への取組をアピールすることで、多くの人に「この会社は信用できる」、「この会社で働いてみたい」という印象を与え、より**多様性に富んだ人材確保**にもつながるなど、企業にとってプラスの効果をもたらします。

ポイント 2　社会の課題への対応

SDGs には社会が抱えている様々な課題が網羅されていて、今の社会が必要としていることが詰まっています。これらの課題への対応は、**経営リスクの回避**とともに、**社会への貢献**や**地域での信頼獲得**にもつながります。

ポイント 3　生存戦略になる

取引先のニーズの変化や新興国の台頭など、企業の生存競争はますます激しくなっています。今後は、SDGs への対応がビジネスにおける**取引条件**になる可能性もあり、**持続可能な経営を行う戦略**として活用できます。

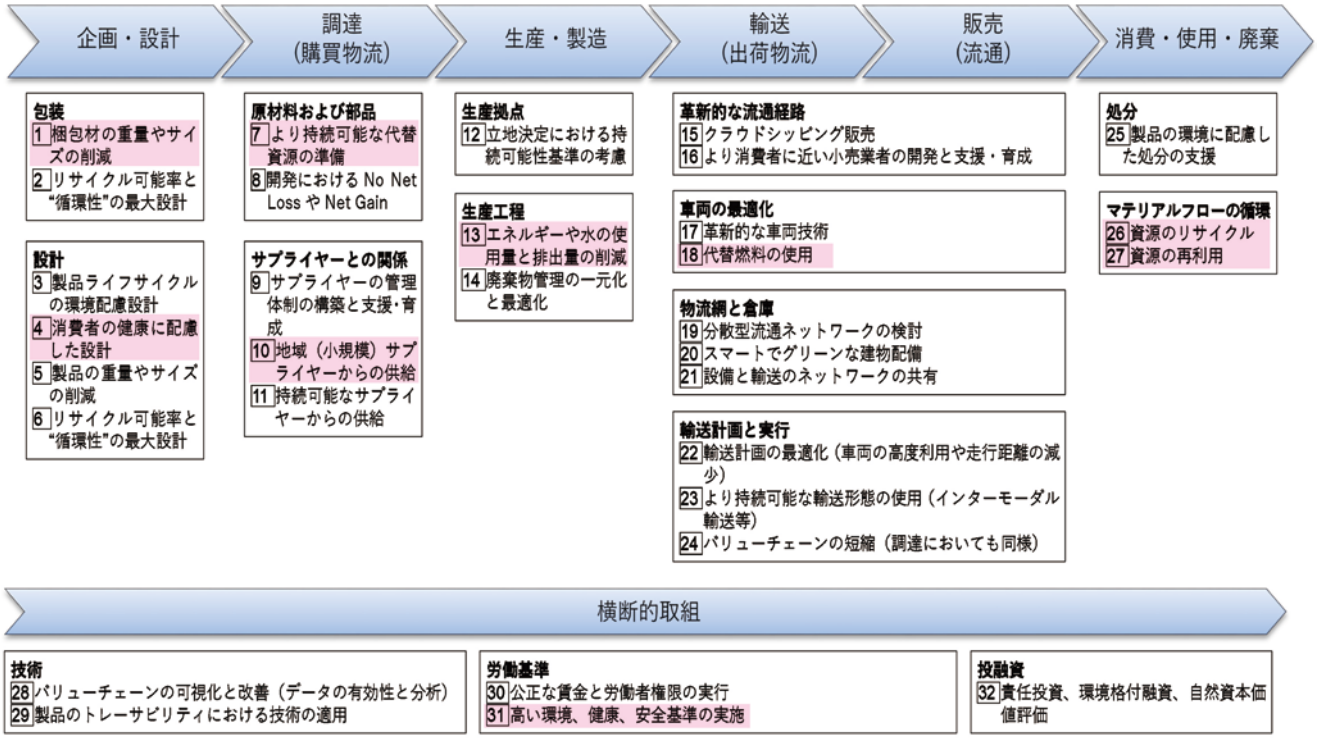
ポイント 4　新たな事業機会の創出

取組をきっかけに、地域との連携、新しい取引先や事業パートナーの獲得、新たな事業の創出など、今までになかった**イノベーションやパートナーシップ**を生むことにつながります。

出所：環境省「持続可能な開発目標（SDGs）ガイド 第2版」

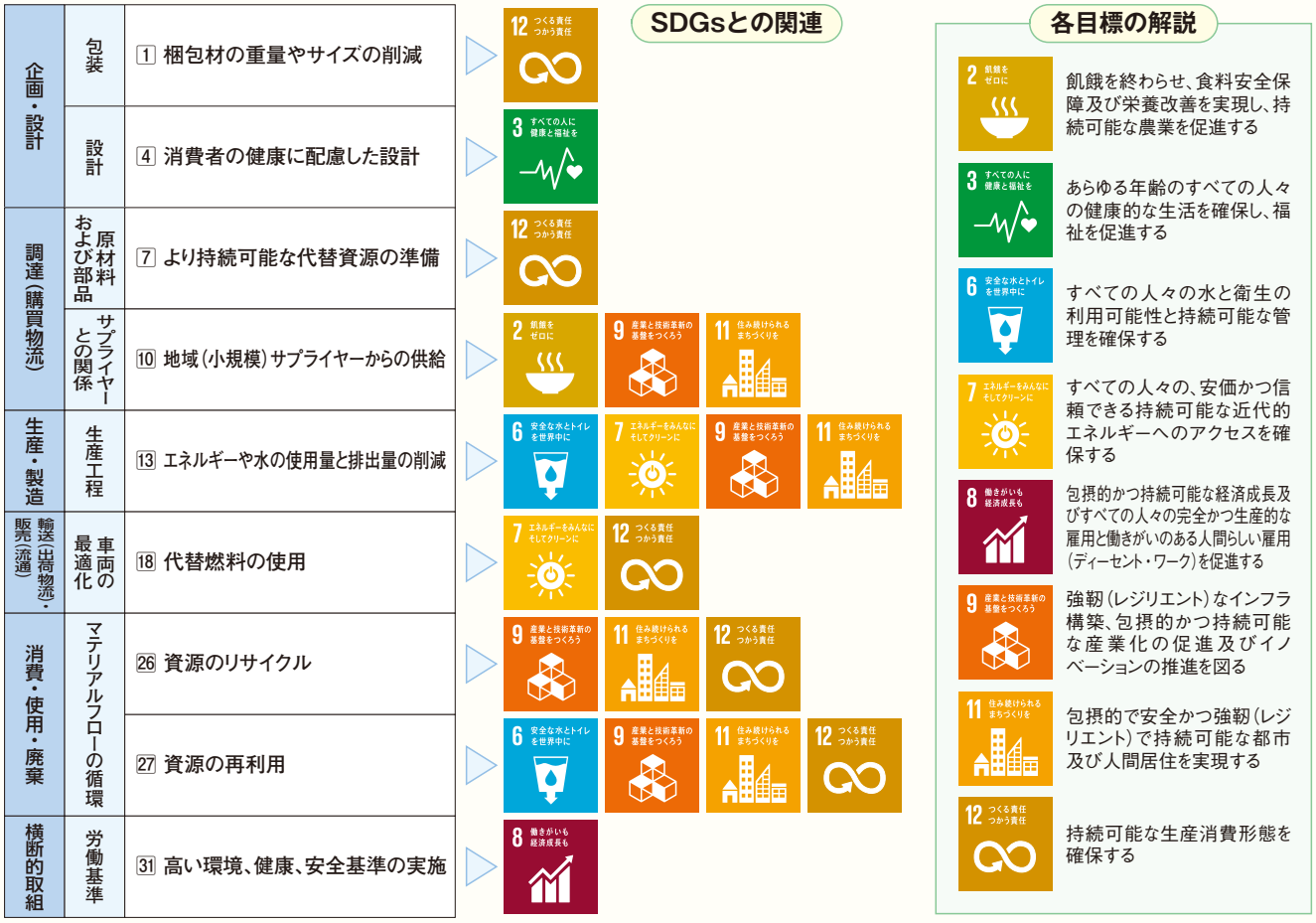
＊「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことで、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの国際目標です。17のゴールと169のターゲットで構成されており、気候変動や格差など幅広い課題に対し、すべての国が関わって解決を目指します。

図 3　企業の事業活動におけるSDGsのゴールとの相関図



出所：環境省「持続可能な開発目標（SDGs）ガイド 第2版」を加工して作成

図 4　企業の事業活動におけるSDGsとのつながり（図3の一部を抜粋）



出所：環境省「持続可能な開発目標（SDGs）ガイド 第2版」より当社作成